

資料2 J.S.バッハ作曲マタイ受難曲の聖句とコラール(讃美歌 136 番原曲歌詞)

コラール歌詞 : POCA-2006/8 添付歌詞(杉山 好 訳)による
聖書の言葉 : 新改訳 2017

讃美歌136番引照聖句

ガラテヤ 3:1 ああ、愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、目の前に描き出されたというのに、だれがあなたがたを惑わしたのですか。

導入の合唱

管弦楽による長い序奏に続いて第一合唱団が歌い出し「見よ」と叫ぶと、第二合唱団が「誰を」「いかに」と短く問いかける壮大な合唱曲。

来たれ、娘たちよ、われと共に嘆け、
見よ、

だれを? [第二合唱]

花婿を、
見よ、そのきみの

いかにいますか? [第二合唱]

小羊のごとくにいますを。

(児童合唱によるコラール「おお、罪なき神の子羊よ」)

おお神の小羊、罪なくして
十字架の上にはほふられしおん身よ、

見よ、

だれを? [第二合唱]

花婿を、
見よ、そのきみの

いかにいますか? [第二合唱]

小羊のごとくにいますを。

見よ、

なにを? [第二合唱]

その忍耐を見よ。

いかなる時にもおん身は忍耐をつらぬきたり、
よし、いかばかりの辱しめをこうむりたもうとも。

見よ、

いずこを? [第二合唱]

われらの罪咎を。

すべての罪を御身に負いたまえり。
さなくばわれらは望み絶ゆべし。

見よ、かれ

愛と慈しみゆえに
十字架の木をみずから負いて行くを。

われらを憐れみたまえ、
おおイエスよ。

最後の晚餐

マタイ 26:1 イエスはこれらのことばをすべて語り終えると、弟子たちに言われた。

26:2 「あなたがたも知っているとおおり、二日たつと過越の祭りになります。そして、人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」

《 マタイ 26:3 ~ 29 掲載省略 》

オリーブ山へ

マタイ 26:30 そして、彼らは賛美の歌を歌ってからオリーブ山へ出かけた。

26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜わたしにつまずきます。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。

26:32 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

讚美歌136番の原歌詞、第5節

われを知りたまえ、わが守りて、
わが牧者よ、われを受入れたまえ！
すべての善きものの源よ、汝によりて
われは多くの善きものをこうむりたり。
汝の口より出づる乳の甘き滴りはわれをうるおし、
汝の霊より溢るる賜ものは
天の愉悦もてわれを満たしぬ。

マタイ 26:33 すると、ペテロがイエスに答えた。「たとえ皆があなたにつまずいても、私は決してつまずきません。」

26:34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度わたしを知らないと言います。」

26:35 ペテロは言った。「たとえ、あなたと一緒に死ななければならぬとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみな同じように言った。

讚美歌136番の原歌詞、第6節

われはここなる汝のみもとに留まらん。
われを退けたもうなかれ！
みもとよりわれは去らじ、
汝の心傷つき破るるとき。
汝の胸、とどめの一突きに青ざめ果てなば、
われはこの腕をば広げて、
み体をわがふところに抱きまつらん。

ゲッセマネの園での祈り

マタイ 26:36 それから、イエスは弟子たちと一緒にゲッセマネという場所に来て、彼らに「わたしがあそこに行つて祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。

26:37 そして、ペテロとゼベダイの子二人と一緒に連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

26:38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここにいて、わたしと一緒に目を覚ましていなさい。」

《 マタイ 26:39 ~ 27:14 掲載省略 》

総督ピラトの前に立つ主イエス

マタイ 27:15 ところで、総督は祭りのたびに、群衆のため彼らが望む囚人を一人釈放することになっていた。

27:16 そのころ、バラバ・イエスという、名の知れた囚人が捕らえられていた。

27:17 それで、人々が集まったとき、ピラトは言った。「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスカ、それともキリストと呼ばれているイエスカ。」

27:18 ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことを知っていたのである。

27:19 ピラトが裁判の席に着いているときに、彼の妻が彼のもとに人を遣わして言った。「あの正しい人と関わらないでください。あの人のことで、私は今日、夢でたいへん苦しい目にあいましたから。」

27:20 しかし祭司長たちと長老たちは、バラバの釈放を要求してイエスは殺すよう、群衆を説得した。

27:21 総督は彼らに言った。「おまえたちは二人のうちどちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」

27:22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれているイエスを私はどのようにしましょうか。」彼らはみな言った。「十字架につけろ。」

27:23 ピラトは言った。「あの人がどんな悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につけろ。」

27:24 ピラトは、語ることが何の役にも立たず、かえって暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の目の前で手を洗って言った。「この人の血について私には責任がない。おまえたちで始末するがよい。」

27:25 すると、民はみな答えた。「その人の血は私たちや私たちの子どもらの上に。」

27:26 そこでピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した。

嘲られ卑しめられる主イエス

マタイ 27:27 それから、総督の兵士たちはイエスを総督官邸の中に連れて行き、イエスの周りに全部隊を集めた。

27:28 そしてイエスが着ていた物を脱がせて、緋色のマントを着せた。

27:29 それから彼らは茨で冠を編んでイエスの頭に置き、右手に葦の棒を持たせた。そしてイエスの前にひざまずき、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、からかった。

27:30 またイエスに唾をかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたいた。

讚美歌136番の原歌詞、第1, 2節

おお、血と傷にまみれし御首(みかしら)
痛みと辱しめにゆがみぬ。
おお、嘲りのため
茨の冠を結われし御首(みかしら)！
おお、つねならば美わしく飾られ
こよなき誉れと飾りを頂く御首(みかしら)、
いまは嘲弄の極みを受く、
おん身ぞ、われには慕わしけれ！

おん身、気高き御顔よ、
つねならばおん身の前に
世の大いなる権威も恐れおののくものを、
いまおん身はいかに唾せられし、
いまおん身はいかに色失せたまいし！
たれの打ちたるか、その御まなこ、
いかなる光もならびえぬ光の源を、
かくも無残に閉じ塞(ふさ)ぎしは？

ヴィア・ドロローサ

マタイ 27:31 こうしてイエスをからかってから、マントを脱がせて元の衣を着せ、十字架につけるために連れ出した。

27:32 兵士たちが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会った。彼らはこの人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。

ゴルゴダの十字架

マタイ 27:33 ゴルゴタと呼ばれている場所、すなわち「どくろの場所」に来ると、

27:34 彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。

27:35 彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いてその衣を分けた。

27:36 それから腰を下ろし、そこでイエスを見張っていた。

27:37 彼らは、「これはユダヤ人の王イエスである」と書かれた罪状書きをイエスの頭の上に掲げた。

27:38 そのとき、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右に、一人は左に、十字架につけられていた。

27:39 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしった。

27:40 「神殿を壊して三日で建てる人よ、もしおまえが神の子なら自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」

27:41 同じように祭司長たちも、律法学者たち、長老たちと一緒にイエスを嘲って言った。

27:42 「他人は救ったが、自分は救えない。彼はイスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおう。そうすれば信じよう。」

27:43 彼は神に拠り頼んでいる。神のお気に入りなら、今、救い出してもらえ。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」

27:44 イエスと一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

イエス・キリスト十字架上の言葉

マタイ 27:45 さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。

27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

27:47 そこに立っていた人たちの何人かが、これを聞いて言った。「この人はエリヤを呼んでいる。」

27:48 そのうちの一人がすぐに駆け寄り、海綿を取ってそれに酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けてイエスに飲ませようとした。

27:49 ほかの者たちは「待て。エリヤが救いに来るか見てみよう」と言った。

27:50 しかし、イエスは再び大声で叫んで霊を渡された。

讚美歌136番の原歌詞、第9節

いつの日かわれ去り逝くとき、
われをば離れ去りたもうな。
われ死に面するとき、
汝 立ち出でてわが盾となりたまえ！
恐怖と不安の闇
わが心を囲み閉ざさんとするとき、
われをこの怖れの闇より引き出したまえ！
汝の嘗(な)めつくせし不安と責苦のゆえもて。

マタイ 27:51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が裂け、

27:52 墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる人々のからだが生き返った。

27:53 彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。

27:54 百人隊長や一緒にイエスを見張っていた者たちは、地震やいろいろな出来事を見て、非常に恐れて言った。「この方は本当に神の子であった。」

《 マタイ 27:55 ~ 27:58 掲載省略 》

マタイ 27:59 ヨセフはからだを受け取ると、きれいな亜麻布に包み、

27:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。そして墓の入り口に大きな石を転がしておいて、立ち去った。

27:61 マグダラのマリアともう一人のマリアはそこにいて、墓の方を向いて座っていた。

27:62 明るる日、すなわち、備え日の翌日、祭司長たちとパリサイ人たちはピラトのところを集まって、

27:63 こう言った。「閣下。人を惑わすあの男がまだ生きていたとき、『わたしは三日後によみがえる』と言っていたのを、私たちは思い出しました。

27:64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと弟子たちが来て、彼を盗み出し、『死人の中からよみがえった』と民に言うかもしれません。そうなると、この惑わしのほうが、前の惑わしよりもひどいものになります。」

27:65 ピラトは彼らに言った。「番兵を出してやろう。行って、できるだけしっかりと番をするがよい。」

27:66 そこで彼らは行って番兵たちとともに石に封印をし、墓の番をした。

マタイ受難曲の最後を飾る大合唱

最初の「われら涙流しつひぎまずき」のおおらかな旋律と、「安らかに」の動機とが、やわらかく織りあわされて発展してゆき、最後にもう一度力強く再現されて曲は結ばれる。

われら涙流しつひぎまずき、
御墓なる汝の上に願いまつる——
憩いたまえ安らかに、安らかに憩いたまえ！
安らい給え、苦しみぬきし御肢体(からだ)よ！
憩いたまえ安けく、憩いたまえ、心より！
御身を納めし墓と墓石こそ
わが悩める良心のうれしき憩いの枕、
また魂の安けき逃れ場にてあれば。
憩いたまえ安けく、安けく憩いたまえ！
かくてこの目はこよなく満ち足りてまどろまん。